

福祉公社通信



4月号

発行日

平成 30 年 4 月 10 日

【第 61 号 (月刊)】

福祉公社は、武蔵野市が全国に先駆け、昭和 55 年に設立した在宅サービス提供機関です。
誌名「羅針盤」はご利用者を包括的に支援し、その人生と共に歩むサービスの基本姿勢を表したものです。

三色堇の可憐な花卉に、春が薫り立つ 4 月となりました。
今年は冬の寒さにもかかわらず桜の開花が例年より早く、
先月末には花吹雪が舞いました。

自然の営みは、いささかも怠りなく、
実直です。そのように、新年度もこころ
新たに福祉サービスの向上を目指します。



<紙面から>

平成 30 年度 理事長挨拶	……1ページ
うたごえ喫茶 ともしびコンサート	
理事会評議員会報告	……2ページ
福祉公社 事業報告会 その 2	
みどりの輪アロマテラピー デイひな祭り	……3ページ
お知らせ リレーコラム	……4ページ

平成 30 年度事業開始にあたり

皆さまこんにちは。理事長の萱場でございます。

再び桜の咲く季節が巡ってまいりました。

春は出会いと別れの季節でございます。

わが福祉公社においても、設立当初から 30 年以上にわたって福祉公社を支え続け、柱石を担ってきた管理職職員二名が定年退職を迎えることとなりました。

有償在宅福祉サービスにはじまり、北町高齢者センター及び高齢者総合センターの管理運営、ホームヘルプサービス、ケアマネジメント、成年後見などの権利擁護事業と守備範囲を徐々に広げるに伴い、福祉公社の在り方も変遷してまいりました。

しかし、「住み慣れたところで一生を」を理念として、利用者の利益優先の基本姿勢を貫いてまいりました。私たち役職員は、このことに誇りを持ち、このたび定年退職される職員に労いと感謝の気持ちを捧げたいと思います。

さて、平成 30 年度から 32 年度を計画期間とする市の高齢者福祉計画・第 7 期介護保険事業計画がいよいよこの春から実施されます。

これを受け、市の様々な福祉課題に対応するべく、これらの計画と軌を一にして福祉公社の 30 年度の事業計画、収支予算案を作成するよう指示いたしました。福祉の最前線でご利用者支援し、市の政策の一翼を担う存在として、創業以来福祉公社が蓄積してきたノウハウをこれまで以上に発揮し、市民福祉の向上に寄与する所存です。

私も理事長として三年目に入り、福祉公社がますます皆さまから信頼され、お役に立てる組織となるよう、誠心誠意努力してまいりたいと考えております。

福祉公社と公社職員をより一層ご愛顧いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。



理事長 萱場和裕

うたごえ喫茶 ともしびコンサート

3月1日、高齢者総合センターで開催しました。

早朝は大雨が降りましたが、正午には暖かな晴天となり、122名もの方がご来場され、大盛況のコンサートとなりました。

リクエスト曲「学生街の喫茶店」「若者たち」などを、ともしびの方々のリードにより全員で高らかに歌い上げ、会場に笑顔がはじけていました。

ご来場者の中には、過ぎし青春の追憶に突き動かされるように、体全体で大きくリズムを取りながら歌う方も。

「吉祥寺にうたごえ喫茶ともしびがあった20年前以来なので懐かしい」「学生時代から50年ぶりになるが、夫婦で来られて嬉しい」「こんな機会があればまた来たい」などのご感想をいただきました。

高齢者総合センターでは様々なイベントを開催しております。市報でお知らせしますので、ぜひお見逃しなく。ご来場をお待ちしています。



ピアノと歌によるリード



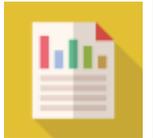
歌唱に聴き入る



ご来場者熱唱



理事会 評議員会 報告



3月2日に理事会が、16日に評議員会が開催され、主たる審議事項である平成30年度の事業計画案及び収支予算案が承認されました。事業計画の重点項目は次の3点です。

第1は地域包括ケア推進人材育成センター（仮称）の設置です。

市の高齢者福祉計画・第7期介護保険事業計画は重点的取組みの一つとして「高齢者を支える人材の確保・育成」をあげ、総合的な人材確保・育成機関として「地域包括ケア推進人材育成センター（仮称）」を設置するとしています。「介護職員初任者研修」や「武蔵野市認定ヘルパー養成研修」等、福祉公社の永年にわたる介護人材育成の実績を活かして、この事業を受託し、10月開設を目標に準備を進めます。

第2は成年後見制度利用促進基本計画策定に向けた積極的な関与です。

市内の認知症高齢者数は、平成29年7月1日現在3,932人で、近年は対前年度比5%を超える伸びで推移しています。認知症だけでなく知的障害や精神障害のある方など、判断能力が不十分な方の権利擁護と成年後見制度の利用促進は、本人と家族の安心にとってますます重要になっています。

市は第5期地域福祉計画で「福祉公社など関係機関と連携し、『成年後見制度利用促進基本計画』策定に向けた検討を行う」としています。福祉公社が地域連携ネットワークの中核機関を担えるよう、積極的な取り組みを進めます。

第3は第3期中長期事業計画の策定です。

福祉公社の実施する全50事業を対象に、すべての職員が参加して事務事業評価を実施した結果、各事業の役割と成果を職員間で共有することができました。更にコスト面や事業実施上の課題も明らかになりました。利用者の視点に立った、新たなニーズに対応できるサービス創設の検討も必要となって来ました。そこで、介護保険制度改正や高齢者を取り巻く社会情勢の変化にも対応するため、本来平成32年度からの5カ年を計画期間とする第3期中長期事業計画を1年前倒しして、平成31年度から新しい計画を開始するべく、本年度中の策定に取り組めます。

なお、承認された事業計画及び収支予算書はホームページに掲載しております。詳細はホームページをご覧ください。(URL http://www.fukushikosha.jp/?page_id=15)



北町高齢者センターの事業報告は、「お母さん、一緒に住もう！」
一度は不調に終わった、他県に住むお母さんとの同居と介護を再開したご家族の就労復帰までをサポートした事例の発表です。

いわゆる「呼び寄せ介護」が近年増加しています。

慣れない土地と家、ライフサイクルの異なるご家族との同居により、認知症のご本人に混乱が生じることが多く、在宅介護を断念することも少なくありません。

報告事例では、転居による住環境の変化を認識できず、「実家に帰る」と徘徊を繰り返すご本人のために、ご家族は止むを得ず介護休暇をとりました。

デイサービス利用を開始しても強い帰宅願望がありましたが、ご本人の得意な「裁縫」に着眼してプログラムを工夫し、デイサービスを「お裁縫の仕事の場」とし、月曜日から金曜日までの通所が可能になりました。また送迎時間も調整し、ご家族は通所開始から3か月で就労復帰できました。

ご本人の様々な個別事情や心身状況の変化を的確に把握し、ご家族の生活の変化等に沿って柔軟にサービスを整え、ご両者のサポートを不断に継続することがデイサービスの責務と考えています。

家族介護教室 みどりの輪 初めてのアロマテラピー

3月23日、公益社団法人日本アロマ環境協会の鴨志田まさみ氏を講師にお迎えし、アロマテラピー講座を開催しました。

アロマテラピーの心身への効能、使用法や注意点を学び、リフレッシュ、リラックスして介護生活の癒しやその継続の一助になることが目的です。アロマテラピーはアロマ（芳香）とセラピー（療法）の造語です。1937年ルネ＝モーリス・ガットフォセによって作られました。健康増進、自然治癒力向上等の効果があるとされています。

ご参加者からは「リラックスした中、質問も出て良い会だ」「さっそく家で試したい」と、好評でした。ご参加の皆様、有難うございました。

認知症予防に効果的なエッセンシャルオイル配合

昼 ローズマリー 2 レモン 1

夜 ラベンダー 2 オレンジ 1

これを部屋に香らせ芳香浴をします。



ローズマリーは神経疲労を癒し、脳の海馬に働きかけて集中力や記憶力をアップさせ、ラベンダーは自律神経のバランスを整え、不安やストレスを癒す効果があるとされています。

高齢者総合センターデイサービスセンター 楽しい ひな祭り

ひな祭りに1日早い3月2日、大正琴演奏グループのユースフルメッツをお招きして、その演奏を堪能しました。

アンコール曲「珍島物語」を含めて全7曲！皆さんがメロディーに聴き入っていました。

司会とご利用者の軽妙なやり取りで会場の緊張がほぐれた後は、金曜ボランティアとスタッフによる即興劇「流し雛の願い事」です。

絵本の読み聞かせを得意とするスタッフが柔和な口調で語りかけると、一転、物語の世界に引き込まれました。登場人物に成りきったボランティアとスタッフの演技に笑いながら、流し雛の由来が分かりました。

プログラムの最後は、お内裏様とお雛様たちに扮したご利用者の歌と踊り。童心に帰った「みんなの楽しいひな祭り」でした。





公社からのお知らせ

老いじたく講座 ～老いじたくの基礎知識～

誰にでも訪れる老いに備え、元気なうちから準備して、尊厳ある老後生活を築きましょう。

日時 4月27日(金) 13時30分から15時
場所 高齢者総合センター3階講義室



～エンディングノート 書き方講座～

日時 5月15日(火) 10時30分から12時
場所 福祉公社1階会議室



問合せ 在宅サービス課 権利擁護センター
申込 ☎ 23-1165 参加費用は無料です。

介護職員初任者研修(通学)受講者募集

～市民の老後を市民が支える～

介護職員初任者は2級ヘルパーに代わる新しい介護資格です。福祉公社では託児助成制度や卒業後一定の実務経験により受講料の80%を返還するケアキャリア制度を整えています。

詳細しおりと申込用紙はホームヘルプセンター武蔵野、市内各在宅介護支援センター、市役所高齢者支援課で配布しています。

申込期間 4月16日～5月18日

問合せ ホームヘルプセンター武蔵野

☎ 23-2611

職員リレーコラム

第47回 《父母と旅した中尊寺》

ケアプランセンター 山下 薫

8年ほど前から両親と幾度か旅行に行きました。

父は大病と闘っては元気に生活し、ディズニーシーや四万十川など旅を続けていました。

帰るときにはいつも「今度どこに行く？」と楽しみにしてくれていました。

震災前の春に中尊寺金色堂に行った時には、父はペースメーカーも入っていたのに、頑張って歩いていたのをよく覚えています。それが、最後の旅となりました。その後、中尊寺は世界遺産となり、忘れられない思い出です。

頑固な父でしたが、「色々なところに連れていってくれて楽しかった」と言ってくれたのは嬉しくて今でも涙が出ます。

現在は入院中の母に毎週面会に行くのが楽しみです。父との思い出話をしています。

⇒ 次回は 管理・社会活動センター 中村 八千代



編集・発行 公益財団法人 武蔵野市福祉公社

次号は平成30年5月10日発行予定です



武蔵野市福祉公社・ホームヘルプセンター武蔵野

東京都武蔵野市吉祥寺北町1-9-1

バス停「武蔵野八幡宮前」下車

☎0422-23-1165 (総務課、在宅サービス課)

☎0422-23-2611 (ホームヘルプセンター武蔵野)

武蔵野市立高齢者総合センター

東京都武蔵野市緑町2-4-1

バス停「武蔵野住宅」下車

☎0422-51-1975 (管理・社会活動センター)

☎0422-51-1974 (在宅介護・地域包括支援センター
補助器具センター)

☎0422-51-2933 (デイサービスセンター)

武蔵野市立北町高齢者センター

東京都武蔵野市吉祥寺北町4-1-16

☎0422-54-5300 バス停「北町四丁目」から徒歩三分

業務時間 8:30～17:15 (全て共通)

福祉公社ホームページ

URL <http://www.fukushikosha.jp/>